

CX週間展望（1月10日～）

週間展望(1/10～1/16)

～ WEEKLY FORECAST ～

調査課

菊川 弘之



PHOTO by KIKUKAWA

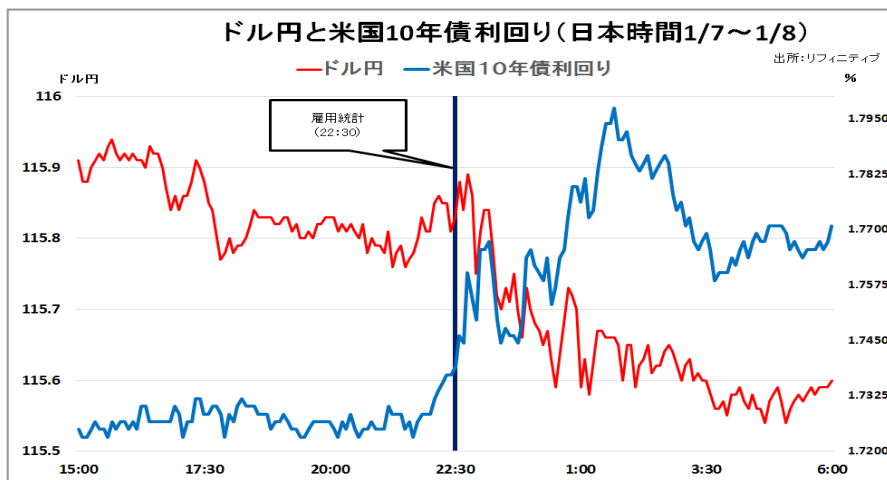
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(1/10～1/16)

～ ドル円～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週は、年明けに米国株の上昇などを背景にリスク選好の動きとなり、米長期金利の上昇などもあって、ドル円は4日に5年ぶりに116円台に乗せた。
- 12月14～15日に開催された米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨では、労働需給がタイトであり、高いインフレ率への対応などから、予想よりも早期の利上げや保有資産(バランスシート)の縮小が必要になる可能性があるとの見解が示された。

主要中央銀行は、 インフレ対応へ

- 米国や英国などでは量的緩和策の終了や利上げに動くといった金融正常化に向けて動いている一方、日銀は引き続き金融緩和策を継続しており、金融当局のスタンスの違いが、円が売られやすい一因となっている。
- 先週末のドル円は、朝方発表の雇用統計で非農業部門の雇用者数は前月比19万9000人増と市場予想(42万2000人増)を下回ったが、失業率は前月から大きく低下し、平均時給の伸び率は市場予想以上となった。米金融政策の早期の正常化観測が高まり、米長期金利が上昇。発表直後は日米の金利差拡大を見込んだ円売り・ドル買いが先行した。ただ、週前半にほぼ5年ぶりの円安・ドル高水準を付けており、買い一巡後は次第に利益確定や持ち高調整目的の円買い・ドル売りが優勢となった。
- CFTC建玉明細(1/4現在)によると、大口投機玉は、62,262枚の売り越し。前週(53,102枚の売り越し)から拡大。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(1/10～1/16)

～ ドル円～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- FRBによる早期正常化観測に対して、日銀が早期引き締めに動く可能性は低く、円安ドル高期待が高まっているが、先週末は雇用統計を受けた米長期金利上昇にも関わらず、上値は抑えられ続落となった。一目均衡表のY字型を形成中。
- 2016年12月高値の118円台を目指す流れではあるが、高インフレの長期化リスクが懸念される中、FRBが引き締めを加速させなければならないような事態に発展すれば、株安・ドル安が強まる可能性も意識される。
- 日米長期金利水準低下による金利感応度の低下や、日本の経常収支構造の変化（経常黒字に占める貿易黒字の割合低下と、第1次所得収支の黒字の割合上昇）などにより、ここ数年のドル円の年間値幅は縮小傾向。
- バイデン大統領は21年11月、パウエル氏をFRB議長としてさらに4年の任期を務めるよう指名すると同時に、ブレイナード現理事を副議長に指名した。
- バイデン大統領は、今後他の3人の理事候補（副議長と理事2名）を指名するが、ハト派的な見方をとる参加者が指名された場合、FOMC全体の構成は2021年と比べてハト派色の強いものとなる可能性も。
- ダラス地区連銀のカプラン総裁とボストン地区連銀のローゼングレン総裁の後任も、ハト派色の強い人物となる可能性がある。
- さらに現状、ECBの利上げ期待は、ほとんど市場には織り込まれていないが、欧州天然ガス相場は高値波乱の様相で、ユーロ圏の高インフレが長期化するようであれば、ドイツ中心にインフレ抑制意欲が強いECBの利上げ期待が高まる可能性もある。

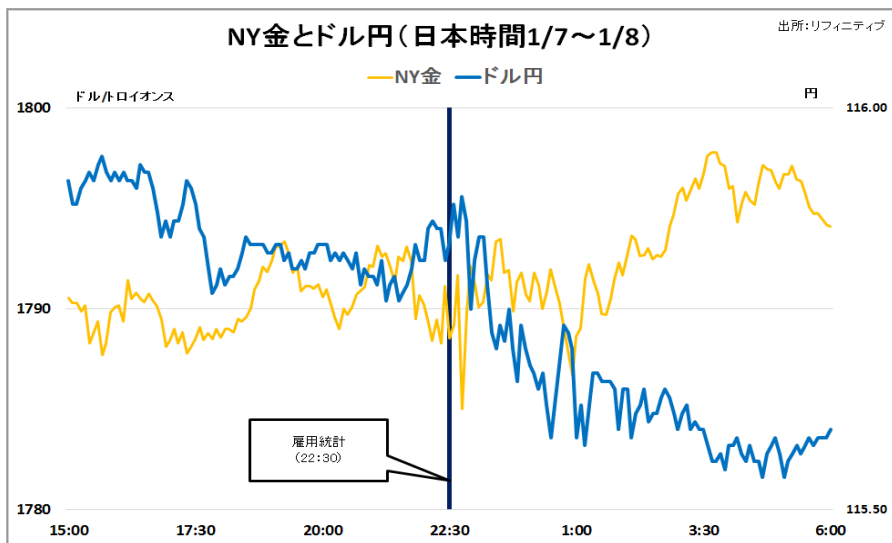
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(1/10～1/16)

～ 貴金属市場 (金：GOLD) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週のNY金(2月限)は、前年末からの流れを引き継ぎ堅調となったが、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨で早期利上げの可能性が示されると、上げ一服となった。米FOMC議事要旨では、労働市場は「非常にタイト」で、高インフレへの対応に向け、予想よりも早期の利上げに加え、保有資産全体の縮小が必要になる可能性があるとされた。
- 米セントルイス地区連銀のブラード総裁は、米FRBは早ければ3月に利上げする可能性があるとしたほか、必要に応じてインフレに対して一段と積極的な措置を講じる「良い状況」にあると述べた。

雇用統計を受けて 押し目は買われる

- 先週のNY金(2月限)は反発。12月の米雇用統計で失業率が3.9%と市場予想(4.1%)以下となり、平均時給の上昇率は市場予想を上回った。米利上げ前倒し観測から、朝方に一時1781.3ドルと中心限月として昨年12月中旬以来の安値を付けた。失業率は一段と低下し、2020年2月以来の低水準となったものの、非農業部門雇用者数(NFP)の伸びは市場予想に届かず、新型コロナウイルス前の雇用水準を回復するまで時間がかかる見通しであることがドルを圧迫。労働参加率は61.9%と停滞しており、労働力不足長期化によってインフレ率が高水準で推移する懸念もあり、金の押し目は買い拾われた。
- CFTC建玉明細(1/4現在)によると、大口投機玉は、211,355枚の買い越し。前週(213,156枚の買い越し)より縮小。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(1/10～1/16)

～ 貴金属市場 (金：GOLD) ～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- NY金(2月限)は、米連邦準備理事会(FRB)の利上げ見通しなどを背景に米国債の利回りが上昇したことに上値が抑えられているが、前週末の雇用統計を受けての米長期金利上昇局面では、ドル買い・金売りとはならず。
- オミクロン株の重症化率が低いと見られる中、新型コロナウイルス前の雇用水準を回復するまで時間がかかる見通しで、労働力不足長期化によってインフレ率が高水準で推移する懸念もあり、足元の米金利急伸にも関わらず、金の下値は限定的となっている。
- 景気回復観測の高まりから株価と共に金利が上昇する「良い金利上昇」になった場合は、金の上値は抑えられやすいが、インフレ懸念の高まりと共に金利が上がる「悪い金利上昇」なら金の買いは強くなる。
- 金利上昇を嫌気した金の安値は、過去の利上げ時の金の値動きと同じく、中長期の買い場を提供するのではないかと？1月の季節傾向(月間騰落率)は、買い優勢の時間帯。月初に米利上げ観測の高まりから売られた安値があれば、安値を売り込むのではなく、チャート上の底打ちを確認して、買い主体の戦略を考えたい。
- FRBがインフレ退治のために急ブレーキを踏み、それが経済を悪化させ、今後数年における「趨勢的スタグフレーション」のリスクが懸念される中、各国の中央銀行がドルの保有を減らしながら、金の保有を増やしているのは、短期的な上げ下げではなく、長期的な覇権や基軸通貨体制の揺らぎを見越しての動きだろう。
- 今年のバイロン・ウィーンびっくり10大予想は、「ヘッジ需要が高まり、金は20%上昇し史上最高値に。暗号資産がシェアを伸ばすものの、金は新たに誕生した富豪の退避場所としての地位を回復」である。

「良い金利上昇」
VS
「悪い金利上昇」

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(1/10～1/16)

～ 貴金属市場（白金：Platinum）～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

FOMC議事録で 早期利上げ観測

- 先週のNY白金(4月限)は、リスク選好の株高を好感して堅調となったが、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨で早期利上げの可能性が示されると、上げ一服となった。米FOMC議事要旨では、労働市場は「非常にタイト」で、高インフレへの対応に向け、予想よりも早期の利上げに加え、保有資産全体の縮小が必要になる可能性があると考えられた。
- 米セントルイス地区連銀のブラード総裁は、米FRBは早ければ3月に利上げする可能性があるとしたほか、必要に応じてインフレに対して一段と積極的な措置を講じる「良い状況」にあると述べた。
- 新型コロナウイルスの感染拡大が続いていることも上値抑制要因。欧州で新型コロナウイルス感染が止まらず、新規感染者がこれまでの最多を更新する国が相次いでいる。
- 先週のNY白金(4月限)は、続落。12月の米雇用統計で非農業部門雇用者数(NFP)の伸びが限定的だったことが重し。労働参加率の低迷が示すように人手不足は続いており、コロナ前の水準まで非農業部門雇用者数(NFP)が回復するまで時間がかかる見通し。人手不足が物価を押し上げ米景気回復の足かせとなっているなかで、FRBが金融政策を引き締め、物価上昇率を抑制しようとしていることは景気見通しの不透明要因。
- CFTC建玉明細(1/4現在)によると、大口投機玉は、6,762枚の買い越し。前週(4,469枚の買い越し)から拡大。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(1/10～1/16)

～ 貴金属市場(白金: Platinum) ～

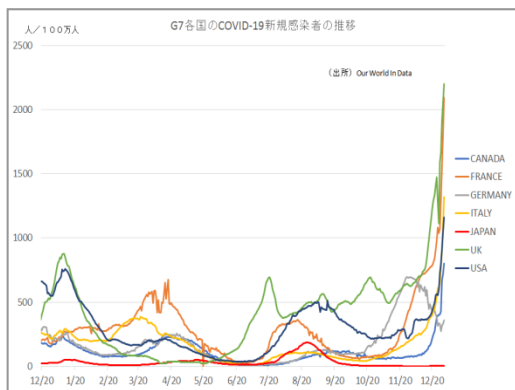
調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- 米欧で「オミクロン株」の感染者が急増している。日本でも各地で市中感染が発生、沖縄など3県へのまん延防止等重点措置の適用を決定した。世界保健機関(WHO)のテドロス事務局長は6日、オミクロン株の症状を軽いと説明するべきではないと警告。多くの人が感染しているため、医療システムが深刻な圧力にさらされていると述べている。
- オミクロン株は感染力は強いものの、重症化率は低いとの見方が、年末年初の株高につながっていたが、若年層の重症化率が低いとされる一方で、高齢者などが罹患した場合の重症化リスクは分かっていない。医療従事者の隔離などによる医療システム崩壊も懸念されている。
- 一方、米通信用半導体大手クアルコムは、自動車用半導体をボルボ・グループのほか、ホンダと仏ルノーに供給する契約を結んだと発表。昨年は半導体不足で自動車生産が減少しており、半導体不足が解消するようなら、生産増加につながり、白金系貴金属の下値支持要因に。
- 価格帯別出来高の厚い3780円～3820円水準で上値を抑えられ、1月6日には長い上ヒゲ陰線引けしており、目先は調整局面入りか？心理的節目3500円水準が下値支持帯として機能するか否かが焦点。



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(1/10～1/16)

～ ゴムRSS 3号先物～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週は、日本休場の間にシンガポール市場が上昇した事に加え、年明けに米国株の上昇などを背景にリスク選好の動きとなり、米長期金利の上昇などもあって、5年ぶりに116円台に乗せる円安ドル高もあり、RSS3号先限は一時250円台まで上昇するも、FOMC議事録で量的引き締めが想定以上に早まる可能性が示唆され、株安に連れ安となった。
- 国内市場は1月－6月限で15円強まで順鞘が進行。産地在庫は十分のようだが船繰り等の流通面に難があり、買い需要が消費地市場に集まっている模様。
- 全国生ゴム営業倉庫在庫(12/20現在)は、12, 024トン(前旬比354トン増)。12月中旬の入出庫は入庫1, 080トン、出庫726トン。

【今週見通し・戦略】

- 1月の月間騰落傾向は、買い優勢の時間帯。昨年からラニーニャ現象が観測されており、東南アジアは降雨が増加する傾向がある。年明けも下げにくい地合いとなりそうだ。
- 2021年12月8日から10日に開催された中央経済工作会議では、2022年の最重要課題として「成長率の安定」が強調された。中国政府は、中国の潜在成長率をおおむね5%～6%と認識していることから、2022年から2025年の成長率を5%台前半程度の安定した水準に誘導すると思われる。仮に2021年1月、2月の経済指標が弱めの内容となれば、追加対策が期待される。
- 中国汽車工業協会(CAAM)は、2022年の中国国内自動車販売台数の見通しを、前年比5. 4%増の2750万台になると発表。2021年は、半導体不足の影響から自動車生産が減少したが、2022年は回復の年になるとみている。
- 米金融正常化やオミクロン株感染拡大に伴う株安が波乱要因。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(1/10～1/16)

～ 穀物市場(大豆・コーン) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週のシカゴ穀物は、ブラジル、アルゼンチンの両国の乾燥・降雨不足による生育悪化の不安、原油高から高値更新の展開となった。
- 先週末のシカゴ大豆(3月限)は、前日に続きデイリー報告の大口輸出成約が発表されたうえ、アルゼンチン産地で10日まで降雨がなく、8日から気温も上昇するとの予報でさらに噴き上げる展開となった。アルゼンチンは世界最大の大豆粕輸出国であることから大豆粕も急伸。シカゴコーン(3月限)は、デイリー報告でメキシコ向けの大口輸出成約が発表されて、11月の月間輸出高が前月を大きく上回った事などが材料視された。
- CFTC建玉明細(1/4現在)によると、大口投機玉は、大豆が130,556枚の買い越し。前週(125,285枚の買い越し)から拡大。コーンが445,481枚の買い越し。前週(458,176枚の買い越し)から縮小。
- 週間純輸出成約高(12月30日までの週)

大豆: 44万9800トン(事前予想レンジ: 70万～120万トン)

コーン: 25万6100トン(事前予想レンジ: 50万～110万トン)

【今週見通し・戦略】

- 11日にブラジルの国家食糧供給公社(CONAB)生産量予測、12日に米農務省(USDA)需給報告、全米四半期在庫の発表がある。南米産の天候相場の時期でもあり、アルゼンチン、ブラジルの需給見通しが注目。
- 12月の需給報告で21/22年度の米国産コーンの期末在庫率は10.1%だった。生産は大きな修正はないとみるが、需要が上方修正され、期末在庫率が10%割れとなり、9月の需給報告の9.5%を下回ると、大豆との比較で出遅れ感もあり、材料視される可能性。原油が高止まりしており、カザフスタン情勢などで上値を試しそうなことも下値支持要因。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(1/10～1/16)

～ 原油市場 (ドバイ原油・CME原油指数) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週のNY原油(2月限)は、新型コロナウイルスの変異型「オミクロン株」が流行しているものの、新たな行動規制の導入による経済への悪影響は限られるとの見方が強く、石油需要の回復が続くと期待されていることが相場を押し上げた。
- 石油輸出国機構(OPEC)プラスが、市場予想通り、2月も日量40万バレルの増産を継続することで合意した。OPECプラスは新型コロナウイルスのオミクロン株が需要に与える影響は一時的かつ軽微であると認識しており、見通しは楽観的。

地政学リスク浮上

- FOMC議事要旨を受けた株安が上値抑制要因となったが、中央アジアの産油国カザフスタンの政情不安やアフリカのリビアの減産により、原油需給が引き締まるとの見方から高値更新となった。
- 先週末のNY原油(2月限)は反落した。米シェブロンは6日、産油国カザフスタンで保有する大型油田の生産を一時的に減らしたと発表。原油を運ぶ鉄道の運行が妨げられている模様。カザフスタンのデモ活動の長期化が世界の需給逼迫につながるとの観測から時間外取引で一時80.47ドルと期近物として昨年11月中旬以来1カ月半ぶりの高値を付け、短期的な利益確定の売りが優勢となった。
- 12月の米雇用統計で非農業部門雇用者数(NFP)の伸びが市場予想に届かなかったことも重しとなった。労働参加率の低迷が示すように人手不足の解消目処は見え、労働力不足が一因となった物価上昇率の加速が続く、景気を圧迫するリスクも懸念された。
- 米ノースダコタ州や加アルバータ州が強烈な寒波に見舞われたことで生産や輸送が一時圧迫された。今週、カナダと米国を結ぶキーストーン・パイプラインは気温の急激な低下を背景に一時停止している。
- CFTC建玉明細(1/4現在)によると、大口投機玉は、332,825枚の買い越し。前週(338,429枚の買い越し)から縮小。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(1/10~1/16)

~ 原油市場(ドバイ原油・CME原油指数) ~

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- ポーランド国境での難民問題、ウクライナを巡るロシアと米国・NATOとの対立構図に加え、カザフスタンでは燃料高に抗議するデモ隊と治安当局が衝突し、同国政府は5日に全土に非常事態宣言を発令した。燃料価格の高騰を背景とした反政府デモが暴徒化。デモ鎮圧のため、ロシア主導の軍事連盟「集団安全保障条約機構(CFTO)」の加盟国が相次いで部隊を派遣している。投入された兵士は数千人規模との報道がある。

欧州リスク継続

- カザフスタンの治安当局は7日も、最大都市アルマトイなどでデモ参加者の武力鎮圧を継続。拘束者は「終身刑」を科されると警告。ベラルーシ大統領府によると、ルカシェンコ大統領とカザフスタンのナザルバエフ前大統領が7日、電話で会談した。ナザルバエフ氏の現在の居場所などは不明。
- カザフスタンは石油輸出国機構(OPEC)プラスに参加しており、生産量は日量160万バレル規模。メキシコとほぼ同水準。カザフ最大のテンギス油田で操業する米シェブロンによると、現地のテンギスシェブオイル(TCO)は生産を続けているものの、混乱を背景とした輸送の問題で一時的に生産量を調節している。
- メンテナンスや油田の一時閉鎖を背景にリビアの生産量が減少していることも支援要因。同国の生産量は日量73万バレル規模で推移しており、前年水準の同130万バレルから落ち込んでいる。
- 北半球最大の暖房油需要期であり、欧州でパイプライン停止等で天然ガスが再急騰すると、原油市場の上値リスクが高まる。一方、米金融正常化観測の高まりに伴い株価に深めの調整が入ると、原油も追随しやすい。天然ガスと株価動向に注意。

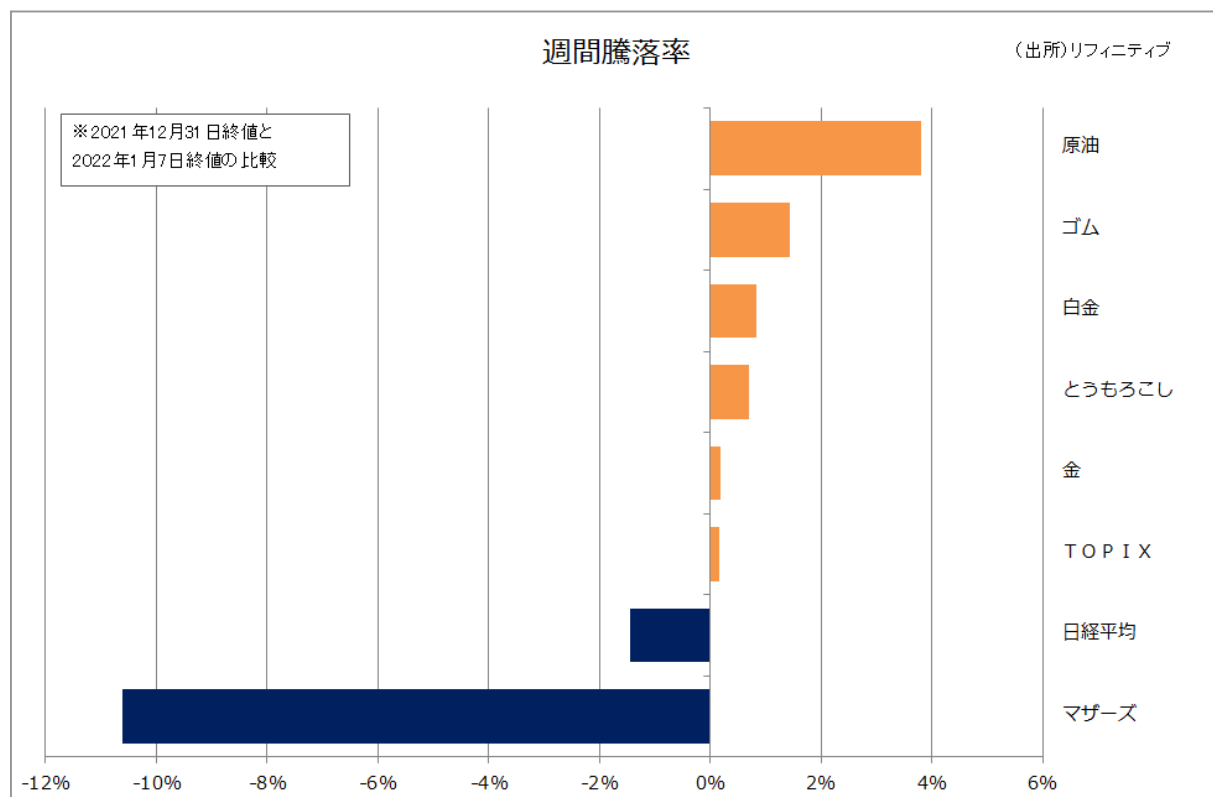
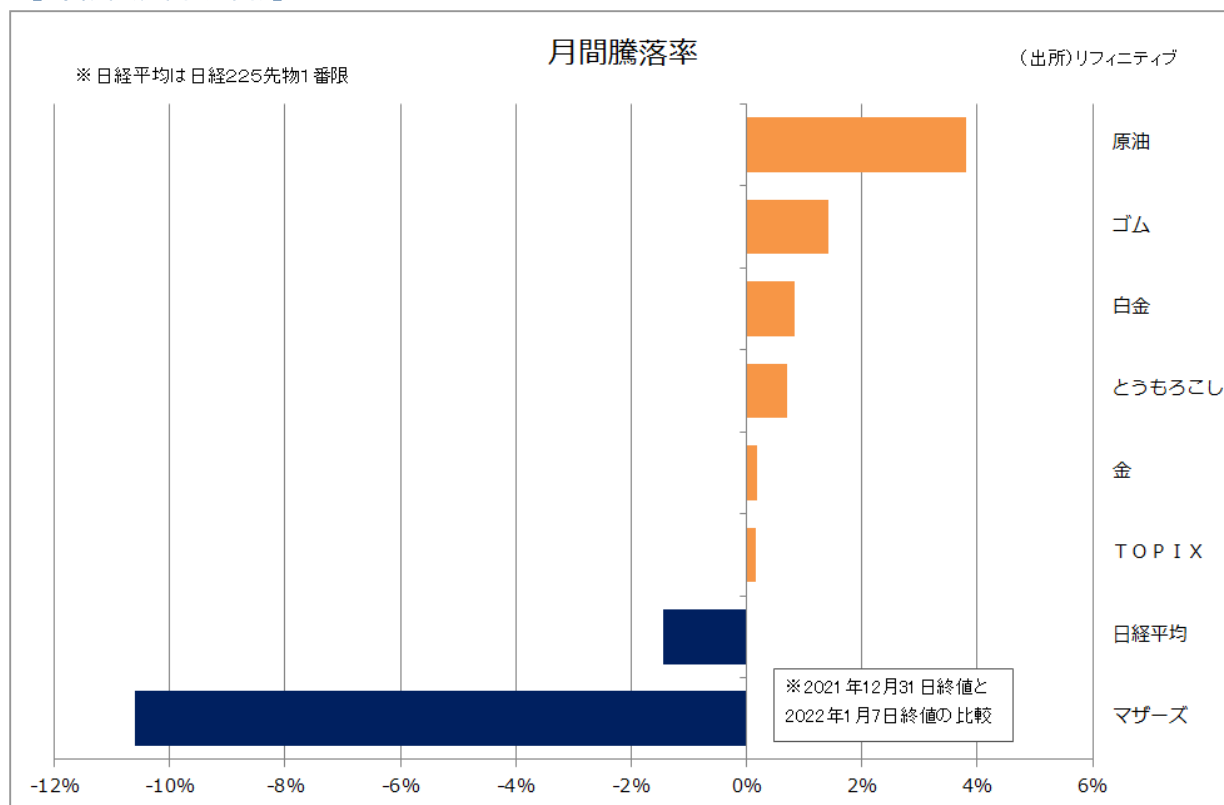
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【週間行事予定(1/10~1/16)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定	前回
1月10日(月)	10:30	中国	12月	生産者物価指数 (PPI) (前年比)	12.9
	10:30	中国	12月	消費者物価指数 (CPI) (前年比)	2.3%
	10:30	中国	12月	消費者物価指数 (CPI) (前月比)	0.4%
	18:30	ユーロ圏	1月	ユーロ圏投資家センチメント指数	13.5
	19:00	ユーロ圏	11月	失業率	7.3%
	0:00	米国	11月	卸売在庫 (前月比)	1.2%
	休場	日本	---	成人の日	
	未定	中国	12月	社会融資総量	2,610.00 (十億)
	未定	中国	12月	マネーサプライ M2 (前年比)	8.5%
	未定	中国	12月	人民元建て新規融資	1,270.0 (十億)
	未定	中国	12月	人民元建て融資残高 (前年比)	11.7%
1月11日(火)	16:00	英国	11月	国内総生産 (GDP) 予測値 (3ヵ月比)	0.9%
	16:00	英国	11月	国内総生産 (GDP) 予測値 (前月比)	0.1%
	16:00	英国	11月	国内総生産 (GDP) 予測値 (前年比)	4.6%
	16:00	英国	11月	鉱工業生産 (前月比)	-0.6%
	16:00	英国	11月	鉱工業生産 (前年比)	1.4%
	16:00	英国	11月	製造業生産 (前月比)	0.0%
	16:00	英国	11月	製造業生産 (前年比)	1.3%
	16:00	英国	11月	貿易収支 (GBP)	-13.934 (十億)
1月12日(水)	8:50	日本	11月	経常収支	1,180.1 (十億)
	19:00	ユーロ圏	11月	鉱工業生産 (前月比)	1.1%
	19:00	ユーロ圏	11月	鉱工業生産 (前年比)	3.3%
	22:30	米国	12月	コア消費者物価指数 (CPI) (前年比) 原数値	4.9%
	22:30	米国	12月	消費者物価指数 (CPI) (前月比) 季調値	0.8%
1月13日(木)	22:30	米国	12月	消費者物価指数 (CPI) (前年比) 原数値	6.8%
	9:01	英国	12月	RICS 住宅価格指数	71
	22:30	米国	1月3日, 週	新規失業保険申請件数	
	22:30	米国	1月27日, 週	継続失業保険受給総数	
	22:30	米国	12月	生産者物価指数 (PPI) 最終需要 (前年比)	9.6%
	22:30	米国	12月	生産者物価指数 (PPI) 最終需要 (前月比)	0.8%
	22:30	米国	12月	生産者物価指数 (PPI) 食品・エネルギー除く (前年比)	7.7%
	22:30	米国	12月	生産者物価指数 (PPI) 食品・エネルギー除く (前月比)	0.7%
1月14日(金)	2:00	米国	---	USDA需給報告	
	8:50	日本	12月	企業物価指数 (前月比)	0.6%
	8:50	日本	12月	企業物価指数 (前年比)	9.0%
	20:00	ユーロ圏	12月	準備資産総額	1,045.37 (十億)
	22:30	米国	12月	輸入物価 (前月比)	0.7%
	22:30	米国	12月	小売売上高 (前月比)	0.3%
	22:30	米国	12月	小売売上高 自動車除く (前月比)	0.3%
	22:30	米国	12月	小売業販売高	-0.1%
	23:15	米国	12月	鉱工業生産 (前月比)	0.5%
	23:15	米国	12月	設備稼働率 季調値	76.8%
	0:00	米国	11月	企業在庫 (前月比)	1.2%
	0:00	米国	1月	ミシガン大 消費者信頼感指数 速報値	70.6
	納会	米国	---	シカゴ大豆2022年1月限納会	
1月15日(土)	5:30	米国	前週分	CFTC連玉明細	
1月16日(日)					

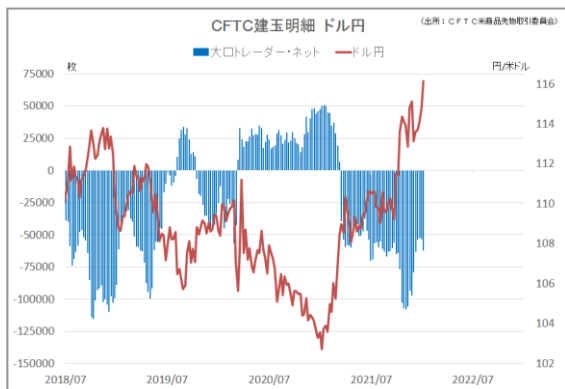
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【騰落率(月間・週間)】

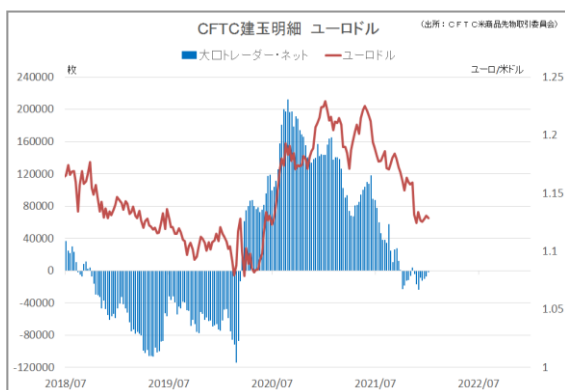


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

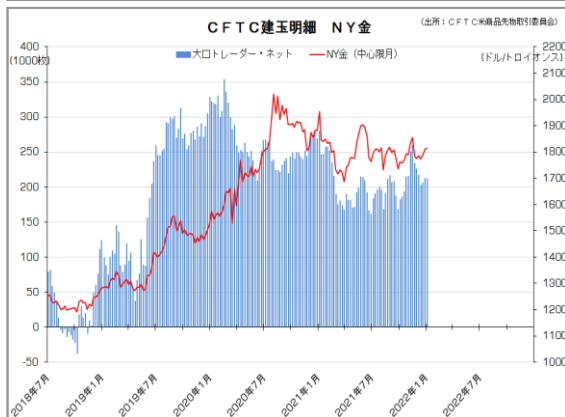
【CFTC建玉明細】



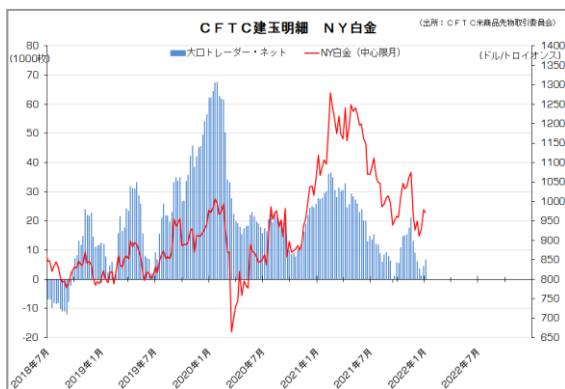
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/12/7	13,148	76,229	-63,081	113.57
2021/12/14	20,231	73,754	-53,523	113.71
2021/12/21	22,191	74,477	-52,286	114.08
2021/12/28	32,475	85,577	-53,102	114.81
2022/1/4	40,816	103,078	-62,262	116.14
前週比	8,341	17,501	-9,160	1.33



日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/12/7	194,869	203,168	-8,299	1.1263
2021/12/14	189,530	201,409	-11,879	1.1257
2021/12/21	196,595	206,757	-10,162	1.1283
2021/12/28	198,617	205,251	-6,634	1.1309
2022/1/4	199,073	200,627	-1,554	1.1285
前週比	456	-4,624	5,080	-0.0024



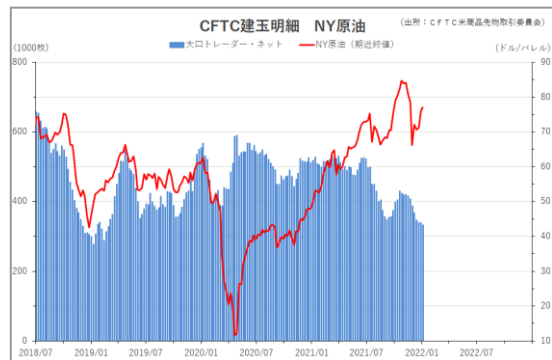
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/12/7	300,518	83,333	217,185	1784.7
2021/12/14	298,142	95,741	202,401	1772.3
2021/12/21	296,628	90,817	205,811	1788.7
2021/12/28	303,879	90,723	213,156	1810.9
2022/1/4	296,583	85,228	211,355	1814.6
前週比	-7,296	-5,495	-1,801	3.7



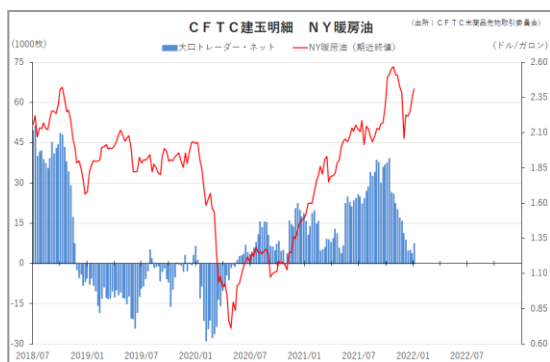
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/12/7	27,056	20,994	6,062	950
2021/12/14	27,853	24,122	3,731	910.9
2021/12/21	28,302	27,034	1,268	927.8
2021/12/28	27,133	22,664	4,469	979.8
2022/1/4	27,680	20,918	6,762	971.2
前週比	547	-1,746	2,293	-8.6

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

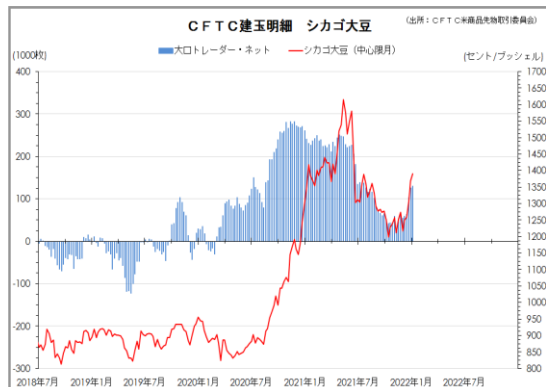
【CFTC建玉明細】



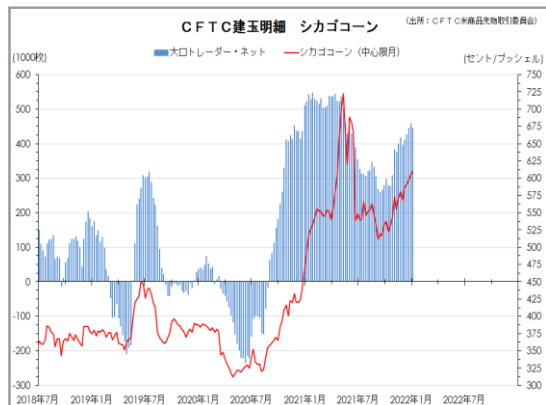
NY原油				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/12/7	492,585	125,353	367,232	72.05
2021/12/14	483,233	136,096	347,137	70.73
2021/12/21	478,276	138,021	340,255	71.12
2021/12/28	469,946	131,517	338,429	75.98
2022/1/4	462,594	129,769	332,825	76.99
前週比	-7,352	-1,748	-5,604	1.01



NY暖房油				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/12/7	39,877	31,280	8,597	2.2246
2021/12/14	37,337	32,614	4,723	2.2184
2021/12/21	39,255	34,358	4,897	2.2514
2021/12/28	41,322	37,691	3,631	2.361
2022/1/4	46,144	38,652	7,492	2.4095
前週比	4,822	961	3,861	0.0485



シカゴ大豆				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/12/7	125,257	65,603	59,654	1250.25
2021/12/14	123,569	60,348	63,221	1259.50
2021/12/21	152,008	49,131	102,877	1308.00
2021/12/28	168,011	42,726	125,285	1368.00
2022/1/4	173,162	42,606	130,556	1389.75
前週比	5,151	-120	5,271	21.75



シカゴコーン				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/12/7	482,428	71,614	410,814	586.00
2021/12/14	495,864	69,243	426,621	590.25
2021/12/21	517,718	72,398	445,320	598.25
2021/12/28	536,934	78,758	458,176	604.75
2022/1/4	526,997	81,516	445,481	609.50
前週比	-9,937	2,758	-12,695	4.75

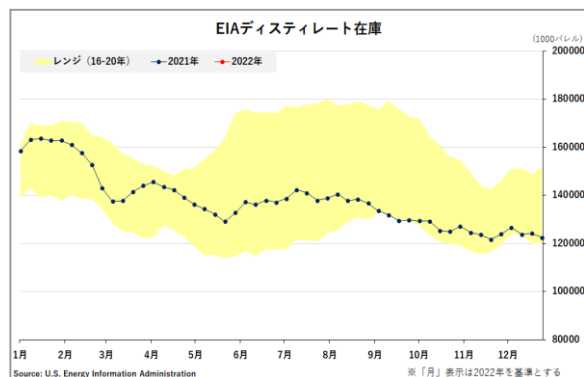
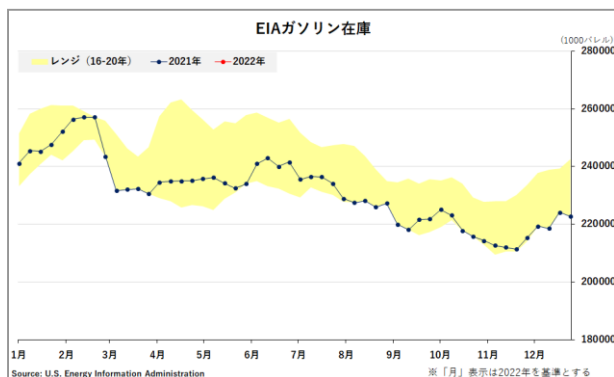
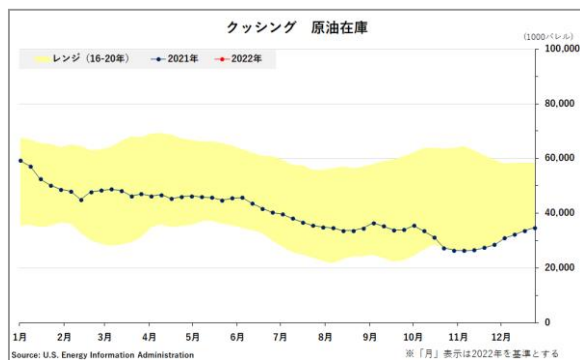
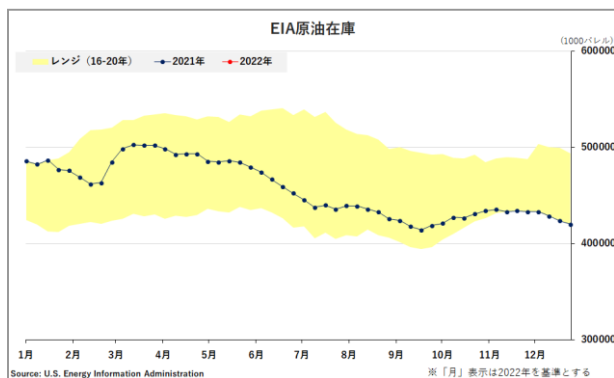
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に十全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【金ETF (SPDR)】



日付	金保有高(トン)	前営業日比
2022/1/10	977.08	±0
2022/1/7	977.08	-1.75
2022/1/6	978.83	-1.16
2022/1/5	979.99	-0.32
2022/1/4	980.31	+4.65
2022/1/3	975.66	±0
2021/12/31	975.66	±0

【EIA在庫】



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等>日産証券株式会社（〒103-0014東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-11）

関東財務局長（金商）第131号金融商品取引業者商品先物取引業者

<加入協会>日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。